

心は世界を結ぶ



写真：菅原アラセ/JICA



写真：石塚善代司/JICA



写真：西殿英里/JICA



写真：坂本達/JICA



写真：増永セルジオ五男/JICA



写真：今村健志朗/JICA

地球というひとつの星に乗り合わせた
7000000000人以上の人々。
たくさんの言葉、いろいろなはだの色。
さまざまな生活、そしていろいろな考え方。

わたしも
この星に乗り合わせた
その中のひとり。
わたしができることはなんだろう？
わたしがやらなければならないことは
なんだろう？

龍馬は考えていた 世界に目を向けにゃいかんぜよ

日本がまだ世界の中で孤立していた幕末、坂本龍馬は、「これではいけない」という思いを強くもち、広く世界へ目を向けようとした。

彼のえがいた新しい日本への思いとその構想は、志なかばでたおれたのちに、実際の新しい国づくりに役立つことになる。そこには、日本も世界の一員として力強く発展してほしいという熱い思いがあった。

新渡戸が言った わたしは太平洋のかけ橋になりたい

大正から昭和の初期、世界各国の関係が不安定な時代、新渡戸稲造は世界をまわり日本という国を理解してもらうためにうったえ続けた。

その後、国際連盟（国際連合の前身）の仕事を通して世界の平和につくし、「太平洋のかけ橋」だけでなく「世界のかけ橋」となった。

わたしも立派な国際人

21世紀の世界。わたしたちが主役の世界。

わたしたちは、世界のできごとをどれだけ知っているだろうか。

食料不足に苦しむ人々、戦争におびえる人々、難民の問題、病気に苦しむ子どもたち。わたしたちはこのようなことから目をそむけてはいないだろうか。

国際人としての自覚をもって世界に思いをはせてみよう。世界の人々と心で結びつくことができるなら、いまのわたしたちにも、できることがきっと見つかるはず。



写真：今村健志朗/JICA



写真：今村健志朗/JICA



写真：今村健志朗/JICA

そしてわたしは、いま

たとえば、外国の子どもたちに学校をプレゼントしようと、自分たちで募金活動に取り組んだ仲間がいる。災害で困っている外国の人たちに役立つことをみんなで考え行動をおこした仲間もいる。——考えてみよう、いまのわたしにできること。

 考えてみよう世界のこと。わたしにできること。

宇宙船 地球号 発進します。



これからの世界は
一人一人が
力を合わせ
つくっていく